

第8回 川の日・河川見学会 記録

日 時：平成20年7月5日(土) 9:30~12:30、天候：晴れ

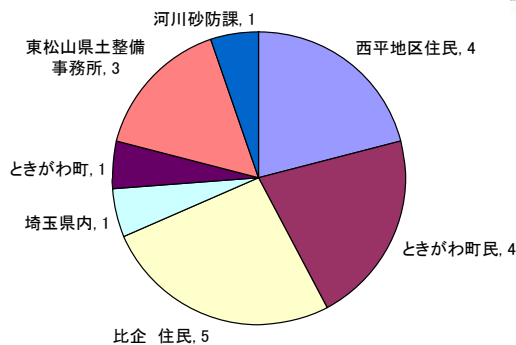
場 所：ときがわ町西平地区 慈光寺川、以後ヶ谷

主 催：比企の川づくり協議会

後 援：埼玉県（東松山県土整備事務所）、ときがわ町

参加者

- ・ 参加者の立場：市民14名、行政関係者5名、合計で19名。
- ・ 市民の居住地：事業地の地元西平地区住民4名、西平地区以外の町民4名、町外住民6名。



工事中の以後ヶ谷 上流側堰堤 基礎工事

1. 主催者挨拶（比企の川づくり協議会 山本悦男）

- ・ 河川見学会は、「川の日」の趣旨である「地域の良好な環境づくりについて、流域の住民・自治体と一緒に考えて、取り組む」ことを趣旨として開催している。
- ・ 第8回目となる今回は、ときがわ町で行われている溪流砂防をテーマとした。

2. 慈光寺川（女人堂にて）

- ・ 整備事務所 藤田主任により事業概要説明。詳細は配布資料を参照。
- ・ 町道拡幅（3m⇒4m）と砂防の一体的な整備。
- ・ 今後の整備区間は約500m、整備期間は順調で6~7年程度か。
- ・ 現在、整備と並行して、土砂災害防止法に基づいた基礎調査を実施中。調査結果をもとに、今後、特別警戒区域（レッドゾーン）、警戒区域（イエローゾーン）について、住民説明の上、設定される予定。



3. 以後ヶ谷

3-1 事業概要説明

- ・ 整備事務所 桜井部長より事業概要説明。詳細は配布資料を参照。

3-2 比企の川づくり協議会から問題提起・提案

- ・ 協議会 渡辺氏（コンサルタント会社勤務、砂防調査などの実務者）から、以後ヶ谷の危険性評価の確認及び問題提起（施設規模の妥当性、景観、街づくり、生態系等）。

3-3 意見交換

工事にあたっての生息生物への配慮

- ・ 工事着手に先立ち、工事区域に生息していたサワガニ、カエル、カエル卵等を回収し、上流側に放流した。（吉田工業/施工業者）

周辺景観との調和

- ・ ここで生まれ、ここで育った。昔に比べ生き物が少なくなった。以後ヶ谷のこれだけの清流は町内でも少ない。周辺景観を含めて整備していきたい。（慈光寺山の会）

散策路、利用

- ・ 桜山公園の手入れをしている。利用者が少なくて残念。一帯のものとして整備され、利用者が増えてくれればありがたい。（地元住民）
- ・ ここに孫を連れて遊びに来る。駐車場があるとありがたい。（市民）

⇒駐車場は、ゴミ投棄等の問題があり、近隣住民の理解が得られない。（ときがわ町）

歴史・文化

- ・ 慈光寺は歴史、文化があり、慈光寺公園構想がある。保全活用計画はどうなっているのか。

⇒具体的なものはない。（ときがわ町）



以後ヶ谷の植生

- ・ 以後ヶ谷の沢（仮設道路下）には、ニリンソウ?など、貴重植物が多種生育していた。（地元住民）

⇒工事終了後は、沢上に敷いた碎石を回収し、原形普及する。（施工業者）

散策路

- ・ 沢沿いに歩ける道とこの沢から慈光寺につながる散策路への接続をしてほしい。（慈光寺山の会）
- ・ 原形復旧する際、ちょっとした配慮で、沢沿いに歩道をつくることは可能では。（市民）
- ・ 可能。（施工業者）

⇒沢沿いは県が用地買収済みであるが、周辺は民有地のため、民有地の横断は地権者の同意が必要。（ときがわ町）

堰堤擁壁面の有効活用

- ・ ここは、町の入口。堰堤にペインティングしたり、アート、観光資源として活用していく発想があってもよいと思う。（市民）

植生回復にあたって

- ・ 植生回復を行う場合は、外来種を持ち込まず、地域の植生を活かしたほうがよい。（地元住民）
- ・ 桜山公園には、シャガ（地元在来種）等を植えている。（慈光寺山の会）

ケヤキ

- ・ 昔は、境界にケヤキを植えた。2mで上を切り大きくしない。根は土留めとしても機能した。（慈光寺山の会）

巨石

- ・ 巨石の下の隙間は、魚の隠れ場だったが、都幾川は河川改修で巨石がなくなり、魚の住み場がなくなった。今回の工事で巨石ができれば活用したかった。（慈光寺山の会）

⇒今回の工事では、巨石はでなかった。（施工業者）

砂防と林業の連携

- ・ 砂防と林業との連携ができていない。（市民）

4. 閉会挨拶（比企の川づくり協議会 千葉）

- ・ ここは、町の入口。折角 5 千万円もかけて整備するのだから、防災機能だけではもったいない。今日出された意見を整理し、街づくりと一体としてどうしていくか、引き続き、整備事務所、町、住民との話し合いの場を設定していきたい。
- ・ 本日は、ありがとうございました。

工事着手前の沢の様子（平成 20 年 4 月 26 日撮影）



見学会を振り帰って

- ・ 今から 5 年前の平成 15 年度、桃の木川の砂防事業をテーマに河川見学会を行なった。その際、多くの参加者から、生態系や景観への悪影響を懸念する意見がだされた。
- ・ 整備事務所からは、「住民の皆さんの意見を聞きながら、よりよい整備を進めていきたい。」との見解が示された。

- ・ それから 5 年が経過。
- ・ 砂防事業をテーマとした 5 年ぶりの河川見学会であった。5 年前の県の見解を踏まえ、砂防事業はどう改善されたか・・・。

- ・ 参加した住民からは、前回同様、生態系や景観への悪影響を懸念する意見が多数だされた。
- ・ 以後ヶ谷の工事は、事前に住民への説明もなく、地元住民は工事が着手されて始めて工事をすることを知ったといった状況であった。
- ・ 5 年前の整備事務所の見解は何だったのか!? 人事異動のたびにリセットされる議論や約束。

- ・ 県内を見渡すと埼玉県は川の再生をスタート、市民側は県内の市民団体の窓口となる埼玉県河川環境団体連絡協議会の設立など、時代は大きく動き始めている。
- ・ その一方で、この現状。この 5 年間で教訓とし、今後は比企の自然や文化に根ざした砂防に転換すべく、さらにじっくりと行政と向き合い、市民参加・合意形成の明確な仕組みを早急に構築していく必要性を痛感しているところである。